

地域生活の定着から就労 に向けての一体的支援

医療法人耕仁会 札幌太田病院

地域福祉課 精神保健福祉士

○林 美里

はじめに

- ▶ 精神障害者が地域生活を継続していくためには、医療と日常生活の両面から支援を行なっていく必要がある。
- ▶ 今回、母も統合失調症を患い、十分な生育環境を得ることができなかった女性の症例に対して、地域生活の定着から就労に向けて一体的な支援を行ない、ハローワークに結び付いた経過を報告する。

事例紹介①

- ▶ A氏、女性20代後半。統合失調症。
- ▶ 小学校時に両親が離婚し、母と二人暮らし。母から虐待を受けて育った。自宅はごみ屋敷状態で、半年ほど家賃や公共料金の滞納があり、生活は困難な状態であった。

事例紹介②

- ▶ X年、母がB精神科を受診。A氏も母の受診に付き添い統合失調症と診断され、母、A氏ともにB精神科病院に入院。
- ▶ B精神科病院の医師より母と距離を置いた生活が必要と判断され、A氏は当院に入院となった。

事例紹介③

- ▶ 入院中は、幻覚妄想状態が続き、母と離れた生活が初めてで不安感が強かった。
- ▶ 自宅での生活が困難なことから、母はB精神科を退院後、グループホームに入居し就労継続支援A型に通所。A氏もグループホームを見学し、試験外泊を経てX+1年、グループホームに退院しデイケアに通所となった。

経過①グループホーム

本人の様子

- ▶ 身だしなみを整えることができない
- ▶ 片づけの仕方がわからない
- ▶ 服の選び方がわからない

支援の内容

- ▶ 入浴の促し
- ▶ 身だしなみ
- ▶ 部屋の整理整頓
- ▶ 食事の提供
- ▶ 買い物支援

経過②デイケア

本人の様子

- ▶ 自分の思いを言語化できない
- ▶ ATMや家賃の支払い方法がわからない
- ▶ 薬の飲み忘れ
- ▶ 仕事の決め方が不安

支援の内容

- ▶ SST（生活技能訓練）
- ▶ 役所・銀行・他事業所への同行
- ▶ 金銭指導
- ▶ 服薬指導
- ▶ 就労プログラム

経過③地域活動支援センター

本人の様子


- ▶ 広報誌を配る場所を覚えられない
- ▶ ハローワークの場所がわからない

支援の内容


- ▶ 広報誌のポスティング
- ▶ 箱折りなどの軽作業
- ▶ レク活動
- ▶ ハローワークの同行

経過④ 本人の希望

「声優になりたい」「自立したい」



「声優になるために、専門学校へ通うお金を貯めたい」



「デイケアを卒業し、ハローワークを利用して働きたい」「一人暮らしをしたい」

経過⑤

病院

- 薬物療法による病状の安定

グループホーム

- 生活能力の獲得

デイケア

- コミュニケーション能力の獲得

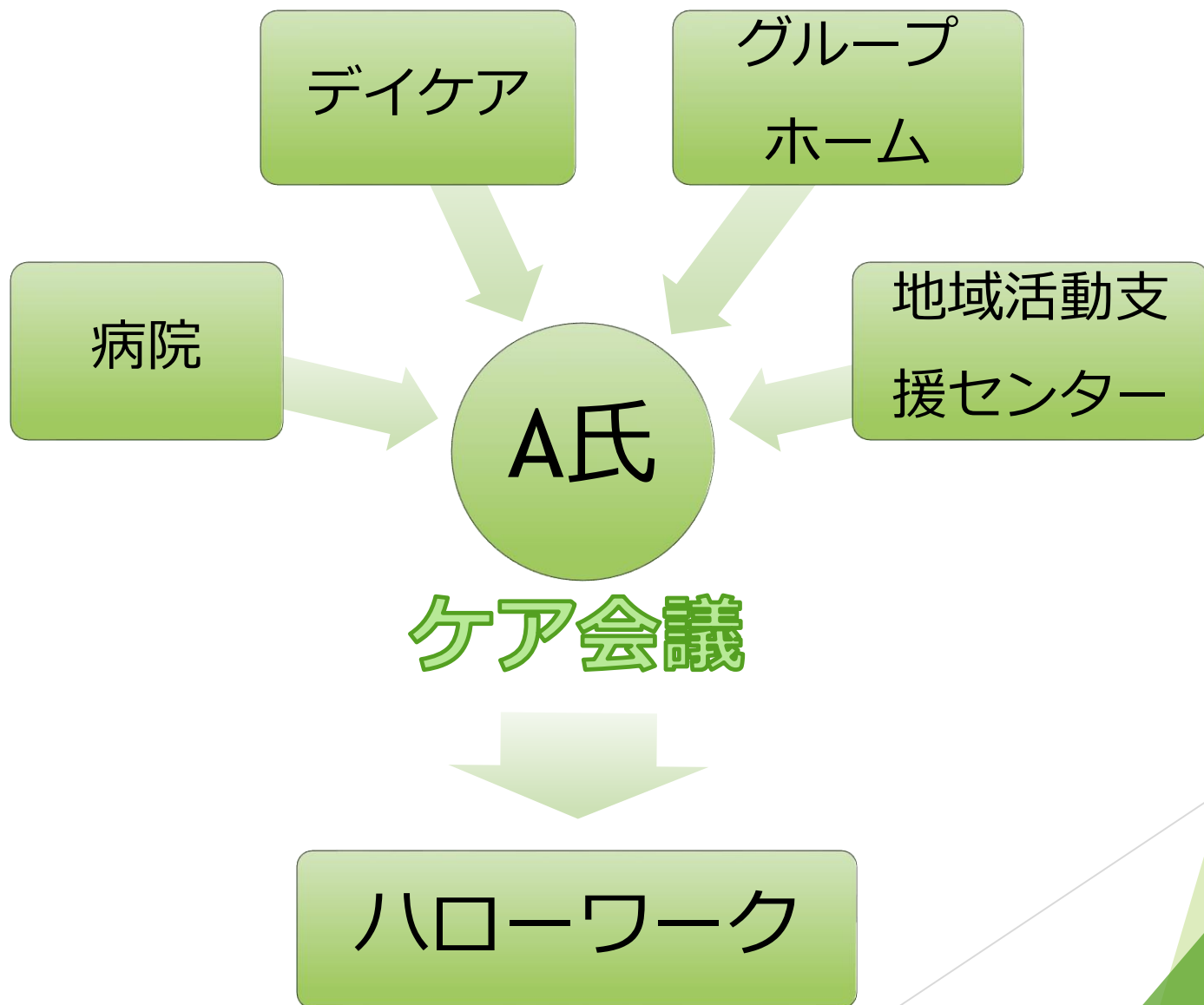
地域活動支援センター

- 作業能力の向上

考察

- ▶ 入院中から退院した現在まで継続的な関わりがあったことで、病院、グループホーム、地域活動支援センターのそれぞれで安心感が生まれた。
- ▶ できることが増え、成功体験の積み重ねにより、自信が持てるようになった。
- ▶ 現実検討能力が高まり、目標を言語化できるようになった。

考察② 一体的支援



ご清聴
ありがとうございました。